

第3回奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会 会議録

と き：平成20年8月20日（水）10：00～12：00

ところ：大垣市役所3階 合同委員会室

出席委員

区 分		役 職	氏 名
座 長	学識経験者	情報科学芸術大学院大学学長	横山 正
副 座 長	文化連盟関係者、観光協会関係者	大垣市文化連盟会長、大垣市観光協会会長	田中 良幸
委 員	中心市街地活性化協議会関係者	大垣市中心市街地活性化協議会準備会会長	金森 勤
	商店街振興組合関係者	大垣市商店街振興組合連合会理事長	北野 茂樹
	自治会関係者	大垣市連合自治会連絡協議会副会長	大橋庄一郎
	婦人会関係者	大垣市連合婦人会書記	谷口いつゑ
	青年団体関係者	大垣市青年のつどい協議会会長	大塚 典和
	市民団体関係者	奥の細道俳句協会会長	田中 青志
		大垣市文化財保護協会会長	矢橋 和江
		ふるさと大垣案内の会会長	河合 和弘
		まちづくり工房大垣・歴史観光グループ代表	疋田 正
	学生	岐阜経済大学学生	蟻塚 正樹
		大垣女子短期大学学生	小西 美那
		大垣女子短期大学学生	中島 章子
		情報科学芸術大学院大学学生	津田 志保
	地元関係者	興文連合自治会会長	松岡 昌男
		西連合自治会会長	北村 正章
		南連合自治会会長	小林 晃
		船町湊まちづくり株式会社代表取締役	三輪 高史

欠席委員

区 分		役 職	氏 名
委 員	学生	岐阜経済大学学生	堀 あゆ美
		岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー学生	菅沼 聖

事務局

企画部	部長	水井 静雄
	政策調整課長	社本 久夫
	政策調整課政策調整係長	寺嶋 太志
	政策調整課主査	後藤 威博
	政策調整課主査	清水 雅士
かがやきライフ推進部	部長	宇佐見昭典
生活環境部	部長	上田 静夫
経済部	部長	田中 重勝
	商工観光課長	伊藤 亮一
建設部	部長	浅井 幸治
	道路課長	森川 祥史
都市計画部	部長	近藤 茂

教育委員会事務局	局長	北村 武久
	文化振興課長	野寺 紀夫

アドバイザー

大垣商工会議所まちづくり特別委員会委員長	車戸 愼夫
大垣商工会議所事務局長	菱田 耕吉
大垣商工会議所事務局	増元 英治
大垣商工会議所事務局	伊藤 孝之

【会議録】

1. 開会

（水井静雄 企画部長）

本日は大変お忙しい中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私、本日の進行を務めさせていただきます、企画部長の水井でございます。どうぞよろしくお願いします。

それでは、只今から、第3回奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会を始めさせていただきます。

なお、本日の懇談会は、岐阜経済大学学生の堀 あゆ美 様、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーの菅沼 聖 様が、所用によりご欠席でございます。

さて、前回の懇談会では、ご出席いただきました委員の皆様から、奥の細道むすびの地周辺整備に関しまして、お一人ずつご意見を発言いただきました。

本日の懇談会におきましても、奥の細道むすびの地周辺整備につきまして、様々なご意見やご提案を頂戴いたしたいと存じます。

それでは、ここからの進行は、横山座長様にお願いいたしたいと存じます。よろしくお願いします。

2. 第2回奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会における各委員の意見について

（横山 正 座長）

それでは、始めさせていただきます。

この懇談会は、大垣市情報公開条例の規定に基づきまして、本日の会議で個人情報など非公開とする事案がないことから、会議は公開といたします。なお、現在のところ、傍聴を希望される方がおみえになりませんが、来られましたら改めてご案内いたします。

それでは、前回の懇談会について、委員皆様のご意見を事務局でまとめておりますので、説明を受けたいと思います。事務局、よろしくお願いします。

（社本久夫 政策調整課長）

各委員の皆様からいただいた内容を事務局でまとめておりますので、資料No.1をご覧くださいと存じます。

まず、座長の横山学長様からは、大垣に来られて8年が経ち、大垣が大好きだということですが、ただ、良いなと思う景観ポイントは少ない。このたびの取り組みが模範になって、それがまち全体に広がると良いというご意見。このプロジェクトは一角だけを考えるのではなく、市で都市計画をきちんと考え、この一体の整備の後に、どうしていくのかという方針を考えてほしいというご意見。例えばということで、奥の細道むすびの地の水門川の両側の部分が少しゴチャゴチャしているので、そうした部分も合わせてきれいに整備して欲しいというご意見。また、水門川に面しているが、道路で水門川と整備地が離れているので、それをつなげるという形で、片側を自動車道、片側を遊歩道にするということを考えてはどうか。それから、昔の船を復活ということを考え、川との直接のつながりができるスペースができれば良いのではというご意見でした。

副座長の田中様からは、大垣市21世紀ビジョン懇談会を8月6日に東京で開催しましたが、その際に、外から見た大垣という意見を聞きました。その中で、芭蕉元禄、芭蕉豆腐、芭蕉いなり寿司などいろいろ出ましたが、豆腐やいなり寿司が、芭蕉とどういう関係があるのかという意見がありました。大垣という地名はいかにも知られていないので、今後どうアピールするかが課題ではないか。大醒榭や小原鉄心といっても、歴史的にも文化的にもまだまだ知名度が低いのではないかと。それから船町を大きくアピールするためには、大垣と芭蕉の関係をアピールしないと、構想倒れになってしまうことを危惧する。なぜ芭蕉が大垣をむすびの地にしたかも含めてアピールすることが大事ではないか。それから、守屋さんの生家の保存をどうするかも重要な課題ではないかというご意見でした。

中心市街地活性化協議会準備会会長の金森様からは、物販ではなく、奥の細道に特化することが重要ではないかということ。物販は、ショッピングセンターもできて、現状では難しいのではないかと。それから、市民あるいは大垣を訪れる人は2〜3時間滞在して帰る人が多い。行ってきて良かったと思われないと、どうしてもリピーターも増えないのではないかと。奥の細道に関わることは、すべて船町に集めるのも1つの方法ではないか。ただ、それだけでは市外から来た人には物足りないのと、奥の細道の芭蕉元禄時代から明治維新までの大垣の先賢を再現することで、滞在できる場をつくってはどうか。それから、見に来てもらうためにも差別化といった点で、つくるならハードもソフトも日本唯一にしていく。それから、大垣で全国的に有名なのは「水の都」と「奥の細道」なので、これに特化して他の地域にないものをつくっていくというご意見でした。

大垣市商店街振興組合連合会理事長の北野様からは、大垣らしさをもっと出さないとダメではないか。記念館といってもいろいろな所にあるので、立派なものを建ててもなかなか入ってくれない。昔、高橋から船に乗って、桑名へ行ったりしたということで、船で海水浴へ行った記憶は一生残るということで、できることなら船着場などを再現してはどうか。レストランやお土産コーナーについては回遊性をもたせるということで、街中を歩いてもらうという点を重視してはどうか。海運や水運を再現するといった思い切ったことをしないと、なかなか大垣に目を向けてもらえないというご意見でした。

大垣市連合自治会連絡協議会副会長の大橋様からは、芭蕉の記念館は、深川と黒羽と須賀川と尾花沢など東北に多い。行程の3分の1に留まっているのではないかと。出羽三山から大垣までは句碑があっても、これといった建物はないということで、大垣で立派な建物を造ったら必ず人は集まってくるのではないかと。全国から集まっただけの十分な核になるということ。それから、先ほどの5か所の記念館を見て、良いところを引き抜き、それらにないところを古風な感じで作っていくと良いのではないかと。それから小原鉄心とか先賢などいろいろやると訳が分からなくなるので、とりあえず「芭蕉」と「奥の細道」に絞って、立派につくったら成功するのではないかと。芭蕉蛤塚忌全国俳句大会といったように、長い名前でも分かりにくいということで、もし施設を建てるなら、奥の細道記念館など分かりやすく親しみやすい名前にしてはどうか。外から見える場所に自噴水をつくって、せせらぎをつくることも大事ではないかという意見でした。あとは、3部屋ぐらい俳句をつくれる部屋、句会ができるような部屋をつくってもらおうと良い。土産物屋や食堂は民間経営の考えがないと失敗するということになりかねないということで、建物前に自然に発生するのが理想ですが、最初のうちはそうした考慮も必要ではないかと。それから総合福祉会館を芭蕉記念館にするのはダメではないかと。風格のあるものをつくって欲しいというご意見でした。

大垣市連合婦人会の谷口様からは、日本一立派な俳句会館をつくってはどうか。付帯関係は後から考えれば良い。幼児からシニアまで憩える場所ということで、そうした雰囲気、アヒルや鳥が飛んでいる水辺の雰囲気などで、俳句やむすびの地を自然に学ぶようにしてはどうかというご意見でした。

大垣市文化財保護協会の矢橋様からは、大醒榭に関心があったが、移築できそうなのでほっとしているという点。外から来た人の目が大事ではないかということで、大学生の皆さんからもそういった意見があったので、意を強くしたという点。駐車場は近くにあるというよりも周遊していただけるという点で、大垣城、美術館、水門川沿いを歩いて、むすびの地へということで、もう少し広い範囲で、そうした展開を考えてはどうか。先ほどの、整備予定地の道路関係では、車の乗り入れ禁止を考えてはどうかということで、水門川の近くまで広場として利用することが考えられないかというご意見でした。

まちづくり工房大垣・歴史観光グループの正田様からは、全国でむすびの地は大垣にしかないということで、特化した施設をつくってはどうか。周辺を歩いてもらい、その間に買い物をしてもらうということで、周遊的なものも含めて考えてはどうかというご意見でした。

岐阜経済大学の蟻塚様からは、全部入れようとすると、なかなか難しいということで、食べて、見て、回遊してもらって、イベントもやると、きりがないので、観光客に見てもらいやすいものは、「芭蕉」、「水門川の水」が中心になるのではないかと。それから、体験するプログラムが必要だということで、俳句を読むためのスペースなどが必要であることや「水の都・大垣」を観光の目的としてきた人には、たらい船に乗ってもらって水門川体験も考えられるのではないかとということで、記念館にしても、何にしても見るだけでは不十分であるというご意見です。それから、

市民がリピーターになる確率が高いので、市民向けも考えていくと良いのではないかというご意見でした。

岐阜経済大学の堀様からは、大垣は外から来にくい場所ではない。名古屋から30分ぐらいでアクセスが良いということで、留まってもらふ工夫が必要ではないか。大垣が「水の都」であるということは随分浸透しているということで、観光パンフレットや広報、インターネットなどいろいろありますが、一番効果があるのは口コミではないかということで、口コミを中心に広げていくことを大切にしようか。それから、地元に住んでいる人たちを、もっと注目させるという点でいくのか、外からの観光客を目標にしていくのかという点を、一緒になる部分もあるし、違う部分も出てくるということで、理想は、日頃から地元の人がその場を活用して、年間を通じて観光に人が訪れることですが、そうした理想に近づける点で、地元の視点でいくのか、観光客の視点でいくのかはきちんと決めたほうが良いというご意見でした。

大垣女子短期大学の小西様からは、前回、学習施設になれば良いというお話で、小中学生はそういう機会がありますが、高校生や大学生の出入りの向上が課題になるのではないか。若い人はマナーが悪いということで、こういったことが起きないか心配しているということで、フリースペースについても、そうしたことがないような配慮が必要ではないかというご意見でした。

情報科学芸術大学院大学の津田様からは、今年の4月に大垣へ引っ越してきたということで、大垣駅からむすびの地は結構距離があるということで、丸一日時間がある人は地図を持って歩きますが、西美濃に観光に来る人は大垣だけでなく、他も見たいということもあるので、そうした面では駅にレンタサイクルがあると良いのではないか。自転車に乗れば回遊していただくことも増えるのではないかというご意見でした。大垣に来て、「芭蕉のまち」ということを知ったということで、「大垣・芭蕉」というつながりよりも、湊町、水の都というつながりの方が強いのではないか。船町の湊の再現という話がありましたが、「陸の湊とは何？」という感じが最初していたということですが、写真を前回見て、こういう風だったのかということで、そうしたPRも当然必要だろうということ。そうした点では、船に乗って桑名まで行くということも考えられるのではないかというご意見でした。

岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーの菅沼様からは、大垣東高校に通っていたということで、駅からの往復だけでなく、奥の細道が好きだったということで、観光客でもローカルでもない立場だったということ。利用者は観光客と生活している人の2つに大別できるのではないかということで、用途や時間帯を考えた計画を進めて欲しいというご意見でした。

興文連合自治会の松岡様からは、芭蕉文化の継承ということから、記念館は市民としてどうしてもお願いしたい。せっかくの記念館なので、本物がたとえ1つでも手に入れないか。先賢といったものをつくるとなると、遺品を含めて、写真だけでは意味がないというご意見。大醒櫓は、それほど費用がかからないので良いのではないか。水門川については、清掃が必要ではないかというご意見でした。

西連合自治会の北村様からは、倉敷へ行ったということで、「見る」、「食べる」、

「買う」、「泊まる」という4つのポイントを倉敷は持っている。車椅子やベビーカーも用意されていた。そうした配慮がされていたという点です。また、今回の構想については限られた地域の構想という点で進めていく方が良いのではないかと。一番欲しいのは記念館ということで、次には、船町川の復元ができないか、自噴水を整備して市民が憩える場所も欲しいというご意見です。また、津山へ行かれたということで大垣の亀の池といったお話。

さらには、奥の細道については、東北ではどうしても東北地方だけで終わってしまっているという意識があるということなので、奥の細道は大垣で結んだということで進めてはどうか。道路については生活道路で利用しているので簡単には通行禁止にはできないのではないかと。倉敷では道路と水面が非常に近かったが、大垣ではどうしても河川の関係で5〜6メートル離れているという現状があるというご意見でした。

南連合自治会の小林様からは、倉敷へ行かれたということで、四季の花が楽しめるようになっていたということで、大垣の場合は、水門川という桜だけということがあるので、その辺りを含めて考えてはどうか。道路の関係ですが、福祉会館のところで、もう少し周囲の状況も回遊性という点で進めてはどうかというご意見でした。

船町湊まちづくり株式会社の三輪様からは、今回の土地をどうするかという点と、全体をどうするかを分けて話をしないと、なかなか見えてこないのではないかと。だいたいのことがまとまれば、すべてのことを具現化しなくても良いのではないかと。

総合福祉会館については、芭蕉記念館でも良いのではないかとという意見。三輪様自身が酒蔵を3階建てで所有していて、それが全国を見ても、なかなかないということで、大垣ならではのものがあるということです。それから、井戸については水門川の浄化を含めて、自噴水を整備していく必要があるのではないかとという意見。

観光協会、ボランティアガイド、NPOといったいろいろな皆さんが、今回の懇談会に参加していない人が10年前に比べるとすごい方々がまちづくりに関わっているということで、むすびの地周辺をきちんと整備すれば、今関わっている人たちが必ず動き出すということで、特に商売をされている人は儲かると思えば絶対出てくるという話。

京都では車を遠いところに停めさせられる。でもあれだけの観光都市になっているということで、駐車場の問題は後から考えれば良いという点。

守屋さんの建物は何とかしたいという思いが強いということで、美術館も含めて、最終的には解決されると思っているが、美術館をつくるという話もあるけれど、これも構想としては必要だが、今回の敷地の中に入れ込む必要はないのではないかと。

現在の予定している敷地については、9代続いた谷家の谷木因さんに関する場所ということなので、そうしたことで、この場所は適当ではないかという話。それから道路の関係では、いつでも通れるということですが、通行の仕方については考えていく必要があるのではないかとというご意見でした。

以上、第2回懇談会における委員皆様のご意見をまとめさせていただきました。

(横山 正 座長)

第2回懇談会の内容について、事務局から説明を受けました。

委員の皆様からのご意見をもとに、アドバイザーの大垣商工会議所において、とりまとめていただいております。大垣商工会議所まちづくり特別委員会の車戸愼夫委員長さんからご説明いただきますが、車戸委員長さんのお考えも込めて説明いただきたいと思います。車戸委員長さん、よろしくお願いします。

(車戸愼夫 アドバイザー)

事務局から皆様のご意見を発表していただきましたが、こういうときにはどうしても温度差があると言いますか、一つに絞られる話はなかなかできないと思います。特化すべきだという話もある一方で、船町全体を良くしていくことによって、むすびの地が光ってくるというご意見もあります。

私は、今から35年ほど前に「西美濃わが街」というタウン誌の立ち上げの同人に参加したときに、初めて「奥の細道むすびの地」を知りました。そのような素敵なものがあるのなら、もっと活用すべきではないかという話をしました。たしか、西美濃という言葉も、そのときからではないか。それまでは西濃と言っていたのですが、今は比較的、西美濃という呼び名が多くなりました。「むすびの地」ということをもう少し前面に出したらどうですかという話をし、その企画をしたことがあるように思っています。それでもその時は、35～36年前でしょうか、「むすびの地」が皆さんの中で叫ばれていなかったような気がします。今は、「むすびの地」がこれだけ皆さんの口から出ることは、なるほどと思っています。その時に、貴船神社から、あの土地まで、その時は今のように更地になっていなくて、確かにアピールするにも難しいと思いつつも、貴船神社から水門川の遊歩道をつくるべきではないかということを30年ぐらい前に提案したことがあります。本町の商店街に、貴船神社と水門川の修景について頼まれた記憶があります。一級河川ということで、図面屋の絵空事であるという感じでした。ただ、その後もう一度、遊歩道計画をやるべきではないか、それも「むすびの地」まで結んではどうかということを行い、実際に出来上がったわけです。一級河川ということで、コンサルタントも東京で、貴船神社の広場も、東京の人はこのようにしてしまうのかなという思いもありました。ただ、出来たということで、今思うと、大垣市長の英断で、ああした場所を確保してもらって、30年以上前からそういうことをやったらどうですかと思ったことが実現されていくことは、胸に迫る感じがしています。

今まで、「むすびの地」ということで様々なご意見が出ています。ただ、風土の歴史のようなものは押さえてから船町の位置づけをした方が間違いを起こさないのではないかと思います。地理学的な条件や水の文化の先人たちの知恵の凄さなどをお話ししました。

本日は市長も来てみえますので、おさらいも兼ねてご説明します。

資料の1ページ目ですが、構想に当たって、まちづくりに関しての話では5分や10分で終わりません。観光というものが主体となって話されていますが、まちづくりのあり様となると、そこに住んでいる人がメインだと思います。船町のむすび

の地記念館にしろ、再認識、再評価することによって、観光産業の資源としては十分成り立っていくでしょう。そうした非日常的な賑わいは出来ると思いますが、一方、本当の船町、大垣市の中心街、大垣市民にとってのあの地域となると、船町全体も含めて日常生活と環境の中で、こうした文化が生かされることで、友達に「良いところがありますよ。歴史が分かるし、なかなかのところですよ」と言って、行けるような日常的な賑わいを自らがつくっていく。一過性になるとなかなか難しいだろう。都市への再投資としてまちができていくことを考えると、2つの軸は守っていかないといけない。5年10年経ったときに、何だったのかとなるような気がしてなりません。

揖斐川の歴史を話しました。どうしてこの地域がということで、くびれであって、最短距離であって、水門川がインフラとしてのとても良いものであって、街道をつないで、それゆえ商業が発展し、文化交流がなされた。だから芭蕉も来たのだろうと話しました。

揖斐川とその水系が培ったということで、船町だけでできたのではなくて、その前に古墳があって、水系の培った力があって、江戸時代から船町が出てきたということをお話しました。

輪中については、先人の知恵と水の文化と書きました。芭蕉の本職は運河、要するに水に関する土木技術者だったはずです。ですから、月山へ行った後、もう一度最上川へ戻っています。きっと芭蕉は水の文化に対して興味があったのではないか。奥の細道の背景には、やはり水運があるのではないかという気がしてなりません。そうした水の文化を軸に奥の細道むすびの地を考え直しながら、記念館も、大垣ならではの違う軸での整理の仕方もあるのではないか。そうしたときは、輪中文化というか、この地域が水と闘って共に暮らしたという先人の知恵と水の文化は、未だに大切だと思っています。

オギユスタン・ベルク先生は、芭蕉に対しても造詣が深く、「芭蕉は自然を文化にした、なかなかの人だ」と言われていました。今まで、和歌、短歌というように、愛や恋、別れというのではなく、自然を俳句という形で描写したのは、なるほどさすがに芭蕉です。その意味では自然を文化にしたということは分かりますし、そうした形で大垣も揖斐川と水門川の水系、水の生活を文化にすることは貴重だろう。それが、やがて、ひょっとすると奥の細道むすびの地記念館の違う軸になるような気がします。

揖斐川のインフラストラクチャーということで、船町の川湊の江戸時代の発展した写真を載せています。昔の川舟の風景など、なかなか素敵な雰囲気です。

奥の細道むすびの地ということで、船町湊と水門川のいろんなことを書いています。この中に、下里家のことは書いていないですが、鳴海の下里家の力は実際には強かったのではないか。船問屋として持っていた支店を、芭蕉は廻り巡ったということを書かれているものもあります。そうした部分を含めると、ある意味では支店である大垣の下里家が最終的にむすびの地になったことも非常によく分かります。「行秋そ」ということでは、なるほど完結していることが分かりますと書いています。

そうした背景をもとに、この土地を眺めたときに、船町地区が大垣にとってもコアの場所になるのではないかと。奥の細道むすびの地としても知名度がありますし、いろいろ歴史、文化の蓄積がある。さらに、ここには人も集まっているということから、大垣市の中心市街地ならびに西美濃全体のゲートウェイとしても機能するのではないかとお話しました。

その意味では、この構想は、船町地区全体の生活文化の整備計画の核にもなるし、市民・来訪者の中心市街地への回遊性を高める場にもなるし、建物をつくらなくても、西美濃全体をフィールドミュージアムにすることのゲートウェイにもなるだろう。その意味では、この土地が非常に大切であり、良い場所ではないかとお話しました。

中心市街地活性化の手法ということで、商工会議所ならびに中心市街地活性化協議会では、3つの場を作って、修景して、結んで、サポートして頑張っていこうとする、特にこの地区は一番のポイントで、ボーリングのセンターピンのようなものです。ここが上手くいくことによって、いろいろなものがパタパタと倒れる、活性化の一番の出発点になるセンターピンのような大切な場所だと思っています。

船町地区の修景化や保護の必要性も話しました。整備の課題も話しました。

敷地の特性として、施設のあり様、駐車場になっているところのあり様、将来の全体の中で一番初めに整理される軸が総合福祉会館と、この場所ではないかということをお話しました。

最後の2ページです。これはなかなかまとまるものではないです。いろいろ意見があると思いますが、皆様のご意見の中でも温度差があるし、特化すべきだとは思いますが、ただ単なる観光だけで良いのだろうかという部分がありますが、とりあえずまとめました。

船町地区の歴史と文化の場という側面と、西美濃地域の観光・交流産業促進の場という二つがあるだろう。歴史・文化の場としては、大垣ならではの奥の細道むすびの地記念館をどうしていくかということ。特色ということで、昨日、矢橋修太郎さんのところへ行きました。手紙の最後に「蛤のふたみに別行秋そ」と書いてあって、いただいた人が、その横に蛤のスケッチを書いてある手紙を見ました。じっと見ると、本物ではないかと思って、記念館のオープニングには、ぜひお貸しくださいとお願いしてきました。初めて、「蛤のふたみに別行秋そ」という、芭蕉が書いたという文字を見ました。その意味では、奥の細道むすびの地というのは、ぜひしっかりしたものにするべきだと思います。

船町の歴史・文化の展示館も、歴史があって急に船町ができたわけではないので、いろいろな方もいるし、文化遺稿もあるので、船町の歴史を語りながら、それゆえ芭蕉が来て、むすびの地になったということも語るべきだろうという、この二つが、船町地区の歴史と文化の場だと思います。

もう一方、こちらは、どちらかというと観光・交流産業系ですが、本来ならば地域住民、一般市民が活用すべきものだと思います。それも含めて観光・交流産業は大切ですから、西美濃のゲートウェイ機能のようなインフォメーション館が必要だろう。そしてイベント広場、ただ単に季節ごとのイベント広場ではなく、その地域

の方も日常使えるような形でのイベント広場にしてみよう。句会などの活動をしている人が使えるような多目的な部屋も必要だろう。物産などのコーナーも必要だろう。川魚料理専門の素敵なレストランがあれば、我々も日常的に使うだろう。土日しか開かないレストランでは運営が成り立たないので、普段でも我々がおいしいと思える川魚のレストランができたら良いと思います。

皆さんの意見をグルーピング化すると、奥の細道むすびの地というキーワードと、船町の歴史・文化と、市民も来訪者も地域の方々もいろんな活動をされている方も含めた交流と、そこで人と出会い、いろいろな話をする交流の場が必要だろう。それとイベント広場。この4つで、皆さん言われたことが、おおよそ分けられるでしょう。その真ん中にインフォメーション館ということで、全部を分かりやすく説明する。特別に資料がなくても、そうなのかということで、再認識、再評価するというよりも、学習するくらいの感じで良いと思います。

これで、交流ゾーンと歴史・文化ゾーンに分けられる。決して建物的にどうこう言うのではなく、皆さんの意見をグルーピング化すると、4つに分かれるという気がしています。

奥の細道むすびの地周辺整備構想の概要という形で書きました。具体的なものは今後詰めていただきたいし、3回の懇談会で簡単に出来るものでもないし、出すべきものでもないと思いますが、皆さんの中で特に出ていたものを挙げてみました。

1番目に大醒榭ですが位置についてはご勘弁ください。適当にいろいろなものを入れてあります。施設がL型にあって、イベント広場では、ここで朝市をしても良いし、イベントをやっても良い。こうしたところにオープンスペースをつくっておくことで、将来の計画のフリースペースになると思います。この広場が、日常的に利活用されれば言うことありません。今後の運営や企画次第だと思います。

施設計画に当たっては、今後、市の方々に良いものを企画して欲しいと思っています。5年10年でなく、長いスパンで、ある意味ではプロセスプランニングというか、だんだん創り込みながら増築していけば良いという考え方もあると思います。核になるものはしっかりつくり、伸ばし、いろいろなものを入れ込むことも可能だと思います。

敷地東側の道路です。確かに遊歩道化すると良いと思いますが、日常生活には困るという意見もありましたので、イベントなどで遊歩道化を試みながら、また、一方通行化を船町の方々の日常生活の利便性と整合性をとりながらやってはどうかということです。

5、6のウォーターフロントは、川湊の風情と東側のリバーサイドの景観を整備したらどうかです。ここだけ整備してもいかなものかということで、船町地区の回遊性が促されるような歩行空間の整備と修景化は、美濃路も含めて大切だと思います。時間がかかるかもしれませんが、一つずつ進めるべきだと思います。

それに伴って、周りにある歴史・文化遺産の保全と整備、拡充を図りながら、船町全体の回遊性をぜひ高めるべきだと思います。そうすれば、より一層この場所が良くなる。ここから回遊性の出発点となるような場にしていきたいと思います。

敷地Bですが、将来の周辺計画がどうなるか分からないときには、フリースペー

スにして、駐車場として何もさわらない。将来の整備のフリースペースとしたらどうかと思いました。

皆さん全員のご意見が入っているものでもないし、勘違いして、違うように捉えてまとめたのかもしれませんが。ここからは、皆さんにいろいろなお話をいただいて、進めていただければと思います。

最後に、30年間のいろいろな思いがあり、あの場が市の方で何とか確保していただけるということに関しては、改めて、小川市長にお礼を申し上げたいと思います。以上が、整備構想のまとめの説明でございます。

3. 意見交換

（横山 正 座長）

アドバイザーの車戸委員長さんから、整備構想のまとめについて、ご説明をいただきました。ここからは、意見交換に入りたいと思います。

整備構想のまとめに対してのご意見でも結構ですし、第2回懇談会でのご発言を補足するご意見でも結構です。それでは、お一人ずつ順番にお聴きしたいと思います。最初に、副座長の田中様、よろしくお願いします。

（田中良幸 副座長）

いずれにしても「奥の細道」と「大垣の水」をまとめてもらって、これを上手く観光資源にすることが一番の鍵だと思います。その辺りを進めて欲しいと思います。

（金森 勤 委員）

先回も差別化が一番だと申し上げました。どうしたら差別化できるかが難しいと思います。芭蕉記念館はどこにでもある。むすびの地は大垣ですが、深川にはスタートの地があります。それぞれありますので、「目で見て、耳で聞いて、読んでの奥の細道館」が良いと思います。

美術館へ行くと、入口から順番に出口まで回ります。自分が芭蕉になったと思って、深川から大垣まで行く。そこにはまず原文が書いてあって、現代文があり、解説がある。そして詠んだ時の風景が描いてある。特に有名な俳句の場所へ来たときは、1坪くらいを立体的に表現する。「行春や鳥啼き魚の目は泪」のときは、芭蕉がその装束をして、みんなに見送られているものがあれば良いと思います。日光山で「あなたふと青葉若葉の日の光」のときは、日の光を再現する。平泉へ行った「夏草や兵共か夢の跡」のときは、その時そのままの風景を立体的に見せられないかと思います。山形で「蚤虱馬の尿する枕もと」のときは、貧農で馬小屋も一緒の家を再現する。立石寺で「閑さや岩にしみ入蟬の声」も、そのまま立体化する。最上川で「さみたれをあつめて早し最上川」のときは、最上川を再現する。「荒海や佐渡によこたふ天河」のときは、薄暗く、上に天の川が照らされている。金沢で「あかあかと日は難面も秋の風」のときも、立体的に見せる。最後は大垣へ来るわけですから、立体的に水門川で船に乗る。

高校生の頃を思い出して、本を買ってきましたが、読むのに2時間かかりました。ですから1時間ぐらいのコースで見せられれば、学習にもなる。こんな奥の細道館をつくってもらおうと良いと思います。中学生には一度は必ず来てもらおうということもできると思います。奥の細道を自分で体験できる。そしてそのときに芭蕉が味わった感動を体感できるものをつくっていけば差別化になると思います。

(北野茂樹 委員)

前回も言ったように、大垣らしさを十分に出すということで、車戸先生が言われたように、観光だけではなく、市民の生活の場でありながら、さらに観光につなげていくこと。

大垣は「水の都」です。それと芭蕉のむすびの地を結び付ける。そして生活の場になるような施設にして欲しいと思います。

そしてこの場所だけでなく、市街地の発展と一体になって欲しいです。駅からゆっくり歩いても15分か20分ほどです。水門川があり、非常に素晴らしい景観です。遊歩道もあって、健康のためにも良いですし、ますます歩く人が多くなります。生活の場ということで、まちの中を通りながら、この場所へ来て、憩うというような場所になって欲しいと思います。

子どもの頃の思い出は一生続くものです。亀の池と同じです。なんとか船着場をもっと重要視して欲しいと思います。

(大橋庄一郎 委員)

前回までに考えは申し上げました。その補足として、大垣へ来た人のために吟行の部屋をつくったら良いと思います。観光客だけでなく、地元の俳句の会も自由に使える部屋です。句会は、むすびの地記念館でやっていただくような習性になると良いと思います。

芭蕉子ども館も良いと思います。大垣は小中学生の投句が非常に多くて、大人の投句数よりも圧倒的に多いことから、子どものときから学ぶということで、子どもの部屋でも良いです。大きな地図があり、深川からどこでも、自分の好きな場所が目で見えるというものをつくったら良いと思います。それに俳句が出てくるような大きな地図をつくったらどうかと思います。

(谷口いつゑ 委員)

ゾーニングの概要で、素晴らしくまとめてもらって、ワクワクしてきました。

今の福祉会館の玄関へ入ると大変暗いです。福祉はもう少し明るくしたいと思っていましたので、このプランを見て、希望が持てると思っています。

この会に際して、大垣市の姿勢が市民の意見を聞いて取り入れてやっていこうということで、素晴らしいと思います。男女共同参画を推進している今日、6名の女性を入れていただいて、聞いていただいたことを大変嬉しく思っています。

(大塚典和 委員)

水に親しめるといふか、水に触れあえるものができたら良いと思います。水の都と言いつながら、子どもたちが水に触れたり、楽しめるものが少ないと思います。

奥の細道も、私が小さいときは、学校で教えてくれなかった気がします。もっと学校の中で教えて、こうした場所がそういう学習の施設になって、小さいときから大垣はこういうところだということ、きちんと教えると良いと感じました。

(田中青志 委員)

先回欠席して取り残されたかと心配していましたが、車戸さんのまとめを聞いて、私が望んでいる方向へ進んでいると安心しました。車戸さんが言われたように、30年来の待望が具現化しつつあるということで嬉しいです。

金森さんが言われたような空間や、大橋さんが言われた俳句会ができること。私たちが思っていたことが、いよいよ出来るということで、ワクワクしています。私がこれ以上付け加えることはない。とにかくつくって欲しい。まずは、地元の人みんなで来ることができると、そして地元の人誇れること。地元の人喜んで来ないと、外から人は来ないです。総力を挙げてつくり、私たちの後に続く若い人たちが、喜んで大垣を楽しむ。この地に、俳句を楽しんでいただける場ができるように祈っています。

(矢橋和江 委員)

この会の設置要綱第1条に、大垣市の歴史と文化が息づく美濃路界隈であるとともに、俳聖・松尾芭蕉が奥の細道を終えたむすびの地に憩いと賑わいの空間を整備し、中心市街地の活性化を図る構想案と謳ってありました。これは非常に良い構想案です。と言うのは、「むすびの地」のみに目が向けられがちですが、駅から歩いて、城下町としての大垣、美濃路の街道が通る大垣であることを学びながら「むすびの地」へ行くという大きな目であって欲しいと思います。

(河合和弘 委員)

最終回のまとめは、素晴らしいデスクプランでまとめられていて、私の思いも入っているような気がします。ぜひこのプランが実現できるよう大きな期待を寄せています。

4年後には47年ぶりのぎふ清流国体も開催されます。大垣市のエリアでも人気種目が多数開催されると聞いています。そのときには大勢のお客様がご案内できるように大いに期待しています。また、そのときまでには東海環状自動車道の西回りルートも養老インターを通したいと聞いているので大きな期待を寄せています。

敦賀は「奥の細道周辺の地」と言っています。大阪の人は「芭蕉終焉の地」と言っています。大垣は「奥の細道むすびの地」ということで、先人の知恵で素晴らしいネーミングだと常々思っています。これを核に、ただ単に観光・交流産業ということだけではなく、地域、あるいは大垣市全体をグランドスケッチして、素晴らしい整備がされることを期待しています。

(疋田 正 委員)

とりあえずの計画ではなく、5年・10年・50年・100年を織り込んだ計画にして欲しいです。前回も言いましたが、「奥の細道むすびの地」に特化した施設にして欲しいです。この地が、俳句を志す全ての人の聖地となるように施設をお願いしたいです。俳句人口は江戸時代から数えると1億人以上だと思いますが、その中で最高の地位にいる人は松尾芭蕉です。その芭蕉の最高傑作が奥の細道で、目指したところが大垣であり、この地です。ですから、俳句を志す全ての人にとって、この地は最も重要な聖地であるべきです。このため、俳句を志す人にとっては、この地へ来て初めて自他共に認める俳句人になる。ここへ来ない限り、半人前であるという位置づけになるような場所にしてほしいと思います。それには、それに見合うだけの立派な施設が必要だとは思いますが、そこをお願いしたいと思います。

(蟻塚正樹 委員)

まとめの具体的な計画を見て、実際に何年か後にできれば素晴らしいものになると思いました。前回、前々回も言ったことは、船町の人たちが「単純に盛り上げない」ということではなくて、楽しんでやることです。それによって観光客との交流がしっかりとできることが一番重要になると思います。大きな施設の維持には、地元の方と観光客の交流が重要になると思うので、そこにも気を配る必要があると思います。

今年いっぱい地元に戻ります。次到大垣へ来たときに、図面化されているものが現実に自分の目で見る日が早く来ることを願っています。今回のことを足がかりに、中心市街地全体の新たな再編の話にもなると思うので、そうなったときも、学生も含めて外の目にも触れていただいて、計画を構築して欲しいと考えています。

(小西美那 委員)

前回、前々回で自分の精一杯の意見は言えたと思っています。今、蟻塚さんが言われたように、何年か後に自分の目で確認できることを楽しみにしています。

奥の細道むすびの地群、船町の歴史・文化群など、奥の細道に限らず船町の歴史・文化も勉強できるのが、とても良いと思いました。地元に住んでいる人ほど、自分の住んでいる地域を知らないことが多いです。自分の地域を見直すことができるのは、とても良いことだと思います。

(中島章子 委員)

今年いっぱい地元に戻るので、次に来たときが楽しみです。前回の資料を見ましたが、9代続いた谷家が構想予定地にあったということで、あったのは偶然とは思えないので、出来ることなら建物を復元して、その中で俳句を詠める施設ができたら雰囲気が良いと思います。景観も良くなると思います。詠むだけでなく、憩いのスペースとして喫茶店のような感じにするのも良いと思います。

フリースペースで、フリーマーケットや朝市など、小さくてもイベントが開けるなら、観光客だけでなく、地元の人も集まって楽しめるスペースができるのは良いことだと思います。

次にここへ来たとき、誰か一緒に連れてきて、「私はこんな素敵な場所で2年間生活していた」と言えるような素敵な場所ができていることを楽しみにしていきたいです。

(津田志保 委員)

チラッと読んだ記事で場所は忘れましたが、戦後、外国兵が駐在している荒廃したまちから兵隊を追い出して、まちの景観を一からつくろうと頑張っていた人たちがいました。それが10年、20年、30年と続いて、そのまちがとても見事な景観となって、それ自体が観光資源となっていていろいろな人が来ている。そういうまちづくりがあるというのを読みました。そのことを思い出したのは、この「むすびの地」には、具体的に史跡や遺構があるわけではないので目に見えていないのに、なぜ大垣のまちに浸透しているのかと疑問に思っていました。すると車戸先生から35年前の西美濃わが街からの提案であったという話がありました。やはり言い出した方がいるのだと思い、誰かが提案して、時間をかけてゆっくり伝えていくことで、時間はかかるけれど、市民全体に浸透することはあり得ると改めて思いました。ですから、箱物的な短期決戦ではなく、長期的に、この計画を進めて欲しいと思います。その際には、今は「大垣・芭蕉」という関係が重要視されていますが、大垣には他にも多くのつながりがあると思うので、それをゆっくりで良いので、少しずつ掘り出してアピールしていくことも大切だと思います。

(松岡昌男 委員)

私が話していることは、興文校下の考えでもあります。この懇談会に際して、校下でどう思うかと、皆さんの意見を聞いて代表で来ています。

今まではリピーターを主力に意見しましたが、仮に芭蕉記念館を建てても、急に観光客が増えるわけでもない。長い年月を重ねることで、大垣に素晴らしい建物が出来たから行ってみる必要があるということで、俳句ファンに来ていただくように徐々にもっていくことが重要です。建物を建てても最初は閑古鳥が鳴いているということもあると思います。やはり、市民の憩いの場を合わせて雰囲気をつくる必要があると思います。

公園もつくと良いと思います。雑草が生えると大変ですから、タイルなどを貼って草が生えない公園をつくと良いと思います。百間堀りの自噴水や井戸は、大垣に1か所しかありません。できたら日本一の井戸を掘って欲しいと思います。

(北村正章 委員)

先般の会合で矢橋会長に反発して帰り道に反省していました。構想の概要を見て、大変立派で、思っていたことが入っているように思います。矢橋さんに反発したものの、日常生活している人との関わりを考えると、思い切って矢橋さんの言われる

ようにしてしまった方が良くもしいないという気もします。そのための手段としては、先ほどは、箱物はもう結構だと言われましたが、限られた地域の中では箱物から取り掛からないといけないと思います。そうした後に、東側の道路を仮に通行止めにするなら、いっそのこと、図面の4に昔あった壺屋橋を作る。東京の日本橋と同じように川のない橋を架けてしまう。通行できなくするのも手段だと思います。

今まで申し上げたことは、他地域を見て、良さばかり言ってきましたが、大垣にとって、来年が、芭蕉が結んだ年から320年目です。そうしたことを考えると一つの文学遺産として実績を顕彰することはとても大事だと思います。そういうことから箱物もやむを得ないと思います。

もう一つ言うなら、「むすびの地」だけでなく大垣全体の構想という位置づけで言うなら、戸田家からいただいた立派な軸があります。各町内が作った軸もあります。軸を半年か1年に1度ずつ入れ替えて展示するような場所があったらどうか。高山には山車会館があります。越中八尾観光会館では曳山を展示しています。全市的なことから考えて、そうしたものもつくっていただけるとありがたいと思います。

(小林 晃 委員)

最初に、水門川の東側も含めて構想を練っていただけたらとお願いしておきましたが、いわゆる6番ですが、そうしていただいてありがたく思っています。構想として非常に良いと思います。市民が訪れ、市民のPRによって、全国にPRするという順序で広まっていったら良いと思います。

(三輪高史 委員)

前2回の懇談会は三輪酒造の社長で話していましたが、今日は改めて、船町湊まちづくり会社の立場で話します。この会社が平成13年に出来て、まちの活性化のために会社をつくらざるを得なかったということです。今回取得いただいた土地は、本来ならこの会社が自ら取得して事業を進めるべきであったと思いますが、たまたま市で買い求めていただくことになりました。そうすると、施設は公共施設になります。

商工会議所を通じて企画部へもお願いしてありますが、船町湊まちづくり会社としては500㎡近い場所をお借りしたい。その中で事業を進めたいという考えを持っています。もともと休み処という考え方があり、食の部分を考えています。俳句協会の方に聞いても「最低200人くらいは集える場所が必要だ」と言われています。それはレストラン部門も含めてだと思いますが、それらを含めて行政がそうした事業を自らやるのは不可能だと思っています。事業化については、この会社を使っていただいて、いろいろな事業を進めさせていただきたいと思っています。

今回、第3セクターのまちづくり会社ができていますが、これは大垣全体を見るということで今月末に協議会が立ち上がります。その中の船町地域ということで、私だけではなく、関係者皆さんで事業を進めていきたいと思っています。

住んでいないところはたくさんあります。放っておけば、その家がなくなっていく可能性が高いですが、おかげさまで関係者に買っていただいています。これが関

係ない人だと話ができない。

車戸先生の構想の中にも福祉会館までの道筋がありますが、実は3人の連合自治会長に参加いただいているのは、1丁目は南校下、2丁目は興文校下、3、4丁目は西校下で、船町が3校下にまたがっていることによるものです。それぞれの民家の人たちは絶えず接触があります。その意味で、この構想を、また町内でも話します。毎月6日に玉の井会があります。玉の井軸を通じて町内がまとまっています。船町連合自治会という名前がついていますが、1丁目から7丁目まである間に7つの自治会があり、軸でまとまっている自治会です。先ほど出軸会館の話もありましたが、軸については、10月11日に11両の軸を出すことになりましたが、船町が八幡さんから一番遠いです。その意味では常葉神社の近くに会館的なものができればありがたいです。そうすると3両軸はいつでも出せることになります。3両軸は各町内持ち回りで皆さん持っていますが、軸が必ず入るスペースが全てあるわけではないです。町によっては、全部解体して片付けているところもあります。そうした意味で、3両軸プラスアルファで、交代で軸を展示できるスペースがあればと思います。こうして話していると、いろいろなことが出てきますが、今回のことがスタートになって順次、駅の方まで行けるように、また駅から来ていただけるようにして欲しいと思います。

(横山 正 座長)

お一人ずつ発言いただきました。どなたか発言の補足はありませんでしょうか。

(矢橋和江 委員)

「奥の細道むすびの地」というネーミングをしたのは、西美濃わが街絡みだと思いますが、今年亡くなった郷土史家の清水春一先生がネーミングをされたと聞いています。ご本人が「実は僕がつけたけど、良い名前でしょ」と言われていました。

(横山 正 座長)

ありがとうございました。最後に私からもお話をさせていただきます。

「水の文化」を中心にすることも、今日のいろいろな話も賛成です。私からも、お話させていただきます。

一つ目は、大醒櫓を残してもらえるのはありがたいことです。建物としても大変面白くて、幕末の文人趣味の建物は誰が見ても面白い。全国的にも注目されると思うので、上手に残されると良いと思います。幕末の時代は現代と芭蕉の時代をつなぐ間の部分として面白い役割を果たすと思います。しかも全昌寺や小原鉄心の墓もあります。上手く生かされれば場所もそんなに取らないですし、大変ありがたいと思います。

そこにできれば芭蕉を植えて欲しいと思います。松尾芭蕉がなぜ芭蕉と名乗ったのかについては、弟子に苗を持ってきて、軒を覆うほど大きくなってうんぬんと言っていますが、実はそれは時間的に無理です。むしろ意識的に芭蕉という名前を選んだのではないか。その前は桃青という李白に関係した名前をつけています。中国

の文化とのつながりを強く考えていたと思います。そして大醒榭にも芭蕉が植わっていました。彼の部下の菱田海鷗の別荘にも芭蕉があるし、江馬細香の詩を読んで、江馬細香の家にも芭蕉が植えてあります。当時の文人たちの思いは芭蕉と竹です。これは明治になっても続きました。夏目漱石の庭にも大きな芭蕉の木がありました。京都下鴨の谷崎潤一郎の家にも庭に芭蕉が植えられていました。その意味では、芭蕉と小原鉄心をつなぐものとして「芭蕉の群落」があると良いと思います。

「むすびの地」というネーミングは大変良いと思います。同時に始まりもあって、芭蕉は深川から千住へ行って、日光街道に入り、最後はここ大垣から桑名へ入ります。初めと最後に船が着いていました。その意味で、イベントや展示など何かの関係で、始まりと大垣をつなぐ企画をしてもらおうと面白いと思います。実は既に少し始まっていて、私事ですが日光街道にある飲み屋が、風情があって好きです。飲み屋街の行灯の飾りをちょうだいして、経済部長の田中さんが前の商工観光課長さんの時代に頑張っていたいて、それをそのままデザインを持ってきました。芭蕉イルミネーションのときの商店街につけている芭蕉坊やの行灯は、そのデザインをもらってきたものです。その意味では千住と少し関係があるのですが、船の文化、川の文化、湊の文化ということで、初めと終わりのところで違う計画があっても良いと思います。

最後に、以前に岐阜新聞に書いたことですが、句碑という自然石を使ったものがあります。今、俳句は、世界中で、アルファベットで通用するものです。イタリアでも俳句の本がたくさん出ます。奥の細道風に自分で紀行して、俳句を織り込んだものを出しているイタリア人もいます。そういう時代なので、外国語の句碑があっても良いと思います。大垣のあちこちに各国のアーティストやデザイナーが、その国の言葉で芭蕉の俳句を表現した現代風の句碑があっても良いと思います。それをうまく調和させておけば良いと思います。そうした外国の新しい句碑の第1号が、この敷地でなく、水門川のほとりでも良いですが建って、だんだん世界各国の今のデザインの句碑がいろんな国の言葉でできると面白いと思います。そういう発展の仕方もあると思います。

これまで懇談会委員の皆様には、3回の懇談会において、奥の細道むすびの地周辺の整備に関しまして、様々なご意見やご提案をお話しいただきました。市においては、これら意見や提案を参考にして、むすびの地周辺に憩いと賑わいの空間をつくる、「奥の細道むすびの地周辺整備構想」を策定いただくようお願いし、進行を事務局へお返しします。

4. 閉会

（水井静雄 企画部長）

横山座長様、ありがとうございました。それでは、小川 大垣市長が、皆様にお礼を申し上げます。

(小川 敏 市長)

奥の細道むすびの地周辺整備につきましては、これまで3回の懇談会におきまして、様々なご意見・ご提案を頂戴いたしました。これまで、委員の皆様には、奥の細道むすびの地周辺の、憩いと賑わいの空間づくりにつきまして、ご検討いただきましたことに、感謝申し上げる次第でございます。

また、横山座長様には、懇談会を進行いただきましたことに、重ねてお礼申し上げます。

今後、市といたしましては、この懇談会で頂戴いたしましたご意見・ご提言を参考にさせていただき、中心市街地活性化の起爆剤となる、「奥の細道むすびの地周辺整備構想」を策定してまいりたいと思います。

委員の皆様には、今後とも、奥の細道むすびの地周辺の整備につきまして、ご支援・ご協力賜りますことをお願いして、お礼のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

(水井静雄 企画部長)

ありがとうございました。懇談会委員の皆様には、大変お忙しい中、3回の懇談会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

以上をもちまして、奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会を閉会させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。